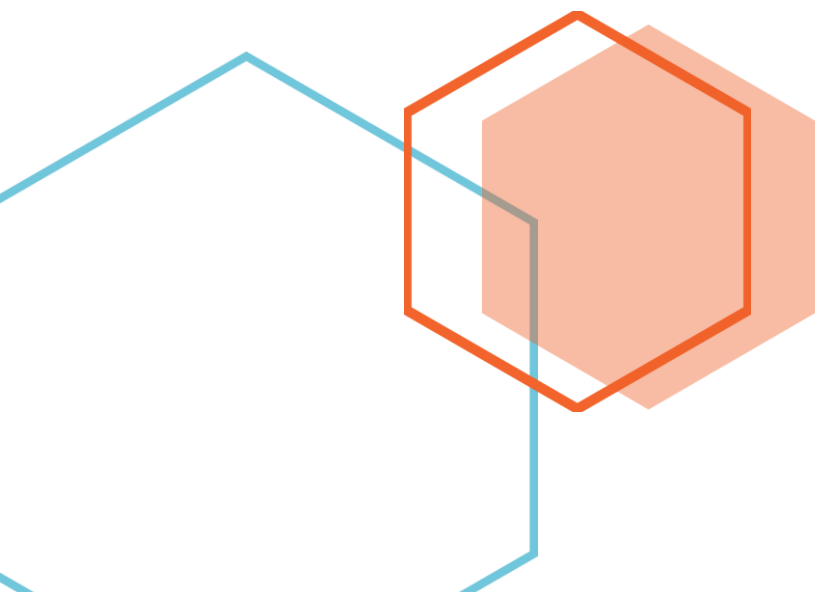




白井高齢者生活支援会議

第 1 層協議体

第 1 層協議体（白井高齢者生活支援会議）とは？高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、支え合う地域づくりについて、白井市全域を対象として話し合いをしています。各圏域のふれあい会議では、地域の課題などを話し合っています。第 1 層ではふれあい会議での報告を受け助言、情報提供をします。白井市は、第 1 層協議体名をわかりやすく「白井高齢者生活支援会議」としました。



白井高齢者生活支援会議

～令和5年度 第1回目～

令和5年7月6日

《生活支援体制整備事業

第1層協議体と生活支援コーディネーターの役割について》

高齢者福祉課 今井利恵

- ① 白井市の高齢者の状況や高齢化率について
→認知症高齢者に介護認定を受けていない数は含まれていない。
- ② 小学校区別高齢者率について
→自治会別高齢化率はホームページへ掲載している。
75歳以上の高齢者が増えてきている現状がある。
- ③ 介護保険制度の考え方について
→自立支援の考えが生活体制整備事業となる。
- ④ 地域包括ケアシステムについて→住み慣れた地域でいきいきと暮らすための生活支援・介護支援システムを進めている。
- ⑤ 生活体制整備事業→生活支援コーディネーターの設置・協議体の設置・就労支援（白井市で今は行っていない）
- ⑥ 生活支援コーディネーターの活動・協議体の働きについて
→協議体の皆さん、企業の皆さん、地域の皆さんと一緒に白井市や地域の事を考える場である。所属のところに持ち帰り、周知啓発をして生活支援コーディネーターが動きやすくなるようにつなぎ役などをお願いしたい。自立支援のためには、生活支援コーディネーターの役割がとても重要になってく

第1層協議体

H29年度会議にて（初年度）
「白井高齢者生活支援会議」にて、
白井市内全体のテーマを「ふれあう」
としました。

委員の皆さまより自己紹介と
を行いました。

任期は令和8年3月31日です。

白井高齢者生活支援会議
に参加している団体の代表

【委員メンバー】 ※敬称略
白井市自治連合会

飛田 毅

地区社会福祉協議会

成田 秀雄

白井市民生委員児童委員連絡協議会
山下 昌江

白井市高齢者クラブ連合会
岩田 明子

(福)阜仁会 さつきの里
寺田 健一

NPO 法人白井市ボランティア連絡協議
入江 富士子

白井市商工会
駒村 武夫

白井市介護支援専門員協議会
仲山 君子

A S A N T 白井
能登 雅彦

医療法人社団東光会 北総白井病院
有賀 崇記

る。白井市はどういう地域なのか、具体的なことを考える場として第一層協議体の委員の皆さまの忌憚ないご意見、ご協力をお願いしたい。



《生活支援体制整備事業における民間企業との連携について》

高齢者福祉課 安岡紹子

令和4年度2月の会議にて委員の皆様より白井市における生活支援体制整備事業での企業連携の考え方と今後の方向性についてご意見をいただき、その回答や説明を行う。

①地域ぐるみネットワーク(ふれあい会議)での経緯や取り組み例について → 平成24年より市内全域で実施し、小学校区ごとに分かれて話し合っていた。現在に至る取り組み例の紹介。見守りネットは民間企業や事業者のゆるやかな見守りをおこなう事業。

②包括連携協定企業の紹介

③事業における今後の連携について

→いろいろな選択肢があるというのは大切な事である。コロナ前は企業の連携をすすめられていた。民間企業と高齢者の困り事を共有することが必要。これからますます、企業との連携が必要となり、これから協議の場を設けていきたいと考える。

一般社団法人 SET

ににここケアステーション
大網 知子

《市への質問》

Q 企業との協議の場を設けていくとあるが、具体的にどのようなことを考えていけばいいか？

A. 市内の民間企業がどういうことをしているのか知らないこともあるため、今後検討していく。

Q. 見守りネットとあるが、緩やかな見守りとあるが市民の方の認知度やファーストアクションとして市への相談はどのくらいあるのか。

A. 年2回くらい。住民への認知度はまだ低い。企業へは情報発信はしている。医療面からも協力できるところはやっていきたい。

Q. 近所の方とうまく関係性が結べていない方がいて、足腰が丈夫なうちから関わりを持つことが大切だと考える。認知症の方が家などわからなくなった場合は、どこへ連絡すべきなのか。

A. 警察の方が対応をしていただくことが多い。SOSネットワークを通して防災無線が流れる。

《第二層コーディネーターより活動・課題について》

社会福祉協議会 鈴木 茉奈

(1) 活動の報告や、課題について説明。

- ・令和4年度は、生活支援（自宅の中での困り事）の相談が多かったが、令和5年度は、集いの場についての相談の件数が増えている。
- ・集いの場についての解決率が低い。
- ・今後の取り組みとしては、「・・・しかない」ではなく、選択肢を増やすことが幸せにつながる。
- ・安定した活動を継続するために、担い手の確保が必要となる。
- ・ちよい困団体の立ち上げ支援を進めている。(七次台・第二小学校区)
- ・ガーデンサロンの立ち上げを進めている。(南山地区)
- ・第一層協議体委員の皆様は鳥の目となっていただき、広い視野でアドバイスをいただきたい。

(2) ワークショップ

- ・集いの場の課題解決に向けてどのようなアイデアがあるか？(所属する団体の立場より考えていただく)
- ・白井にある地域資源(人・物・場所・企業・文化など)を活用した既存の考えにとらわれないアイデアを教えてほしい。

展開（皆さまからのご意見）

- ・大山口地区では、体操を行っている。しっかりとした体操ではなく、面白い内容を取り入れて、来てくれた人が必ず笑ってもらえるように工夫している。体操を行うことにより、演奏をしたい方も来てくれるようになった。週に1回にとられるのではなく、自分が行きたいときに行ける場があることが理想だが、現実には難しい。
- ・池の上お楽しみ処、池の上2丁目の参加者が少ない。

Q.認知症の方で、身内が近くに

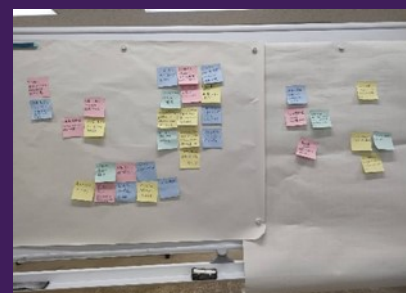
いなくて警察へ連れて行ったことがある。そのような場合高齢者市ではどのように対応した方がいいとかがえるか。

高齢者クラブでは、黄色い布を配っている。布へ連絡先を書けるようになっている。シールのようなものに連絡先を書いて背中に張るのもいい。市でも連絡先が記入できるもの配布もいいのではないかな。

A.市では、靴のかかと部分への記載をすすめている。対応に困った場合は、市へ連絡していただいてもいいかな。

《委員の皆様のアイデア》

2つの班に分かれて、話し合う。地域包括支援センターの方に参加していただき、まとめていただいた。



掘込第4集会所も人が集まらない。場所があるといい。

- ・いろんな周囲のものが、あちこちで行えたらいいのではないか。
- ・さつきの里では、コロナ禍以前は、サロンを行っていた。
今後も場所の提供に協力してもよい。(通所サービスが休みの日などが中心)
- ・移動販売車カスミがくる日は、誘いだして早めに行っておしゃべりしたり、アイスを
買ってみんなで食べたりする。場所にとらわれない集いの場もいいのでは。
- ・集いの場へ行けない方は、膝や腰に痛みがあり、バス停までも歩くことが困難だ
ったり、カスミの音は聞こえていても、そこまで行ったときには、時間が過ぎてしま
う。
- ・カスミ、ヤオパークが回ってきても、そこまでもいけない。
本来なら、近所の人々が誘い出していただきたいが、関係作りができていないこと
もある。
- ・草取りの作業の時に作業に参加してない方も一緒にお茶飲みをしたりしてい
る。
- ・まごころサポートなどの情報提供を供行っていく。
- ・日中使っていない場所(例えば居酒屋など)との関り。
- ・南山第一サロンが再開した。参加者が固定されてしまいがちで
それが課題と言える。
- ・集いの場へ行くための送迎サービスが今後の課題。

次回予定：第二層協議体より通いの場についての報告など
日程が決まり次第お知らせいたします。



本日は、大変貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。



貴重なご意見を積極的
にお寄せいただきまして、
ありがとうございました。

今回いただいた、ご意見
の中にはすぐに結びつきそ
うなものもありました。
生活支援コーディネーター
の活動へとつながり、地域
の方の選択肢が増えてい
くように今後も情報提供な
どもご協力をお願いいたし
ます。

白井高齢者生活支援会議

～令和5年度 第2回目～

令和6年3月14日

前回の協議体から約半年ほど時間が経ちました。第1次回目の会議をもとに支援した内容や、今年度の活動の報告をメインに、11名の委員皆様からご意見をいただきました。

1. ちょい困養成講座について（報告） ～社協新田

講座の内容について報告したあと、助け合い活動や講座に関心をもってもらうための課題や方法などについて委員の皆様よりご意見をいただきました。

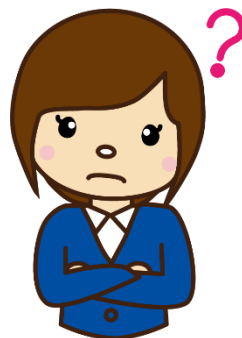
【SCが感じている課題】

▲現状**ゴミ出し**の依頼が最も多いが、**新たな担い手の活動につながりにくい。**

考えられる理由：

- ・オムツゴミなどの重たいものが多く対応できない
- ・他人のゴミを捨てることに抵抗がある
- ・荷物を持ちながら団地の階段昇降することに抵抗があるなど・・・

▲参加者は全員ちょい困活動へ協力してもよいというアンケート結果もあり前向きな講座になったものの、全体としては**非常に参加者が少ない**（参加申し込み8名→**参加者3名**）。ちょい困活動を継続していくためにより多くの市民に関心を持ってもらうには**どのような講座の周知・内容・継続方法がよいか。**



【白井高齢者生活支援会議に参加している団体の代表委員メンバー】 ※敬称略
白井市自治連合会

飛田毅

地区社会福祉協議会

成田秀雄

白井市民生委員児童委員連絡協議会
山下昌江

白井市高齢者クラブ連合会
岩田明子

(福) 阜仁会 さつきの里
寺田健一

NPO 法人白井市ボランティア連絡協議会
入江富士子

白井市商工会
駒村武夫

白井市介護支援専門員協議会
仲山君子

A S A N T 白井
能登雅彦

医療法人社団東光会北総白井病院
有賀崇記

一般社団法人 SET にこにこケアステーション
大網知子

【委員の皆様からのご意見の一部】

- まだまだ**周知が不十分**。
- 個人で無償の活動にしてもよい活動なのか？
→SC の見解：当初は、依頼する側が精神的や金銭的な負担（お礼にお菓子を用意するなど）を感じることなく依頼できるようにという主旨から有償の活動とした。
- 『**有償なのだからもっと働いてほしい**』という視線を感じながら活動している仲間がいる。
- **若い世代が自主的に行っている活動をサポート**する形でかかわっていかないとちょい困活動の継続は難しいのではないかと。
- 地域のボランティアさんの活動をケアプランに盛り込んでいきたいが、継続の不安定性からなかなか積極的に活用には至っていない。ゴミ出し問題は今もこれからも大きな課題になっていくため、**第一層協議体などで環境課と協議していく方向性がよいのではないかと。**
- 広域にわたる問題だと思うので**自治会との連携・エリアを超えての連携**が必要と考える。
- **成功事例**がでたら、たくさん皆さんに伝えて周知してほしい
- **近所の方にゴミ捨てを依頼するのは抵抗がある**という方の声も聞く。また、支援を必要としている人は高齢者だけでなく若年層の精神障害者などもある。**ヘルパー不足ということもありちょい困活動はなんとか継続してもらいたい。**



【考えたこと】

- 環境課をはじめ多機関と高齢者の生活について同じ目線で一緒に考えてもらうにはどうしたらいいだろう
- ちょい困活動を継続していくためには、世代を問わず地域全体で高齢者の生活を支え合っていく必要がある
- 有償ボランティアでは、担えないほど負担となる活動内容の場合があり他機関と連携していく必要があるのではないかと

有償のメリットが大きいと想定していましたが、デメリットを感じるサポーターもいることが分かりました。

地域とのつながりが大切。
まずは、ちょい困サポーターやちょい困の趣旨について知ってもらう事!!

病院への周知や、たくさんの皆さんに成功事例を知ってもらうことなど、新たな視点からご意見をいただきました。

令和4年3月開催の第二層協議体（第一小学校区）にて環境課職員をお迎えして質疑応答を行いました。

参加者からは『個人や自治会だけでなく環境課や市民活動支援課、福祉部などと連携して検討していく必要があると思います。』といったご意見をいただいています。

【実践できそうなこと】

- ・今まで周知していない場所への周知（病院や施設など）
- ・担いきれない活動内容に関しては、民間企業でのサービスの情報を提供していくことでつながっていくこともできるのでは？

2. 二層協議体各圏域について（報告）

～社協鈴木

SC（生活支援コーディネーター）の役割について説明をしました。SCは困っている方がどうしたら暮らしやすくなるかを考え、地域資源を探しています。今年度の報告としては相談が多かった課題や、第1回目の会議でいただいたご意見を基に取り組んだ活動の経過の報告をしました。

こんな人とこんなことに取り組みました

誰と	なにを	どのような目的で
住民（南山・白井）	ガーデンサロン （自宅の軒先を開放した小規模サロン）	・身近な場所での交流 ・近所で気に掛け合える関係づくり
住民（七次台）	ちょい困活動団体の立ち上げ	・近所で気に掛け合える関係づくり ・生活支援体制の構築
住民（大山口）・ カフェクロウ	おやじサロン（コロナ後再開）	・男性の地域参加促進 ・飲食店と取り組む地域づくり
中小企業家同友会白井支部	助け合い活動についての研修会・交流会	・企業と連携した地域づくりにむけた周知啓発
社会福祉協議会広報誌	南山小学校区買い物支援への協力者募集のお知らせ	・活動継続の支援
住民・GGカフェ・くらしと仕事のサポートセンター	ワイヤークラフト講座（お試し開催）	・多世代型の居場所づくり ・飲食店と取り組む地域づくり
みどりの里づくり協議会・第二小学校区地区社会福祉協議会	ちょい困団体立ち上げ準備	・近所で気に掛け合える関係づくり ・生活支援体制の構築
ウエルシア十余一店	ウエルカフェの活用	・企業と連携した地域づくり

地域の方との関係づくり、地域の情報はSCへ聞いたらなんでも知っている!!を目指します。いろんなことにトライしていきます。



地域の課題は解決できることばかりではありません。
R6年度の活動に向けて
委員の皆様からご意見をいただきました。

- ・現在活動している団体さんのサポートの継続が大切ではないか（担い手の募集や課題）
- ・資源がある事を専門職が知らない。知ることによって点（個人）ではなく面（地域）として困っている人を支えられるのではないか。
- ・高齢者の役に立ちたいと考えている学生もいる。学校側とつながること新たなボランティアとつながる可能性があるのでは。
- ・今だけを見て活動するのではなく、先のことを考えて活動しないと5年10年先に、活動していくボランティアがいなくなってしまうのではないか。
- ・LINEの活用（地域の方とつながる）
- ・65歳くらいから地域の人と交わらないと、体が動かなくなってしまうからでは地域に出た交流は難しい。若いときから地域でつながっていることが大切。
- ・生活支援コーディネーターの知名度を上げる。
- ・若い世代に関心をもってもらう工夫（例：隙間時間の有効活用など）

【考えたこと】

- ・SCは既存の団体の支援と世代を超えた周知に向けた取り組みの両立が必要であり、より効率的な事業運営が求められている。
- ・既存団体のサポーター不足＝地域全体の支え合い活動の支え手不足が深刻になる日はそう遠くない。

【実践できそうなこと】

- ・これまで行っていたアウトリーチによる情報収集と、SCに自然と情報が入ってくるような仕組みづくりにむけた取り組みを考え実施できるようにする。

3. 高齢者の暮らしやすい地域づくりに向けた 民間事業者との連携について ～高齢者福祉課 今井利恵氏

3月8日（木）に開催された連携会議では民間事業者同士の情報交換を実施し事前アンケートの回答の報告を行いました。

【アンケート内容と回答の一部】

① 高齢者支援について業務の中で困っていること

- ・セルフレジやコピー機の使い方（コンビニエンスストア）
- ・スマートフォンの使い方についての質問（ドラッグストア）
- ・徘徊している、道に迷って困っている方の保護（コンビニエンスストア）
- ・認知症と思われる方への対応（スーパーなど）
- ・けがや歩行困難な方が心配（スーパーなど）

② 高齢者の要望に対して行っていること

- ・配達サービス（スーパーなど）
- ・認知症・迷子の方への保護・通報（コンビニエンスストア）
- ・新聞配達の他要望に合わせて高齢者の生活をサポートできるようなゴミ出しや訪問マッサージなどのサービスを始める（新聞販売店）

委員の皆様、大変貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。

令和6年度は7月頃の開催予定です。詳細が決まり次第お知らせいたします。



今までは、専門職(ヘルパーや医療職)が高齢者を支えてきた。今後、ますます高齢者は増えていくため、地域で支え合うことが必要となってくる。スーパーやコンビニ、商店や企業、そしてボランティアと地域で協力し合って高齢者の生活を支える方法を一緒に考えていきたい。



ラインのアカウント作りました。
情報やアイデア、どんなことでもお気軽にご意見をお寄せください。



アカウント名は

“白井市社会福祉協議会地域福祉推進グループ” です♪

